

# 令和8年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標 「夢や希望を抱き 心豊かにたくましく 共に生きる生徒」の育成  
～ウェルビーイングを実現する学校をめざす～

## 目指す子どもの姿

## 夢や目標を語れる生徒

- ・自ら学ぶ力をもった生徒【知】
- ・自分や周りの人を大切にできる生徒【徳】
- ・何事にもねばり強く取り組み、挑戦する生徒【体】

変容を目指す資質・能力 a 知識及び技能 b 思考力、判断力、表現力等 c 学びにむかう力、人間性等 d 情報活用能力  
e 課題解決能力 f 学び続ける姿勢 g コミュニケーション能力

三田市長 藤井 許 善  
研究主体【研究推進委員会】

前年度			継続性	4月 (※全国学力・学習状況調査の結果などを受けて年度途中で変更する場合は削除、追記部分を赤字で修正)			2～3月 年度末評価	
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等)	評価		学力向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力)	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価
学力向上に向けた取り組みの推進 (b・c・f)	<p>○◆全国学力学習状況調査において、数学では前年度の平均正答率を上回ったが、国語では前年度を下回った。基礎基本を確実に定着させ、学力向上を目指し、取り組む必要がある。</p> <p>◆成果となる目標②の達成には至らなかった。生徒保護者ともに学力向上の取り組みがされていると実感できるよう努めたい。</p>	A	学力向上に向けた取り組みの推進 (b・c・f)	<p>①全国学力学習状況調査の各教科における平均正答率を前年度以上にする。</p> <p>②「学校評価アンケート」の「学習指導」の項目について肯定的回答の割合を前年度以上にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての生徒にとって「わかる授業」を目指し、互見授業と授業アンケートを実施し、授業改善に取り組んでいく。</li> <li>・黒板等に毎時間「めあて」「学習の流れ」を明示する。生徒に「学習のめあて」を意識させ、「学習の流れ」を明確にすることで、主体的に学ぶ姿勢を培う。</li> <li>・振り返りの機会を充実させ、反復学習を行うことで、基礎基本の学習内容の定着を図る。</li> <li>・資料を読み取る活動を多く取り入れ、自分のことばで説明できるようにペアや、グループ、全体の中で説明する機会を増やしていく。</li> </ul>			
人権教育を基盤にした小中連携 (b・c・g)	<p>○三校研や学校園所連携の機会を年間3回以上もち、各校での取り組みの成果や課題を共有し、目指す子ども像を設定して、目標達成に向けて取り組むことができた。授業参観の機会や合同研修の場をもち、教師間の交流や連携を深めることができた。小学校での学びを中学校での学びへ活かし、継続していけるよう取り組みを進める。</p>	A	人権教育を基盤にした小中連携 (b・c・g)	<p>①中学校区3校による、交流研修の充実(三校研)。</p> <p>②三校研や学校園所連携の機会を年間3回以上もち、連携を強化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育・道徳教育研修を共に行う機会を持ち、共通認識を深める。</li> <li>・全国学力・学習状況調査の合同分析を三校研で実施し、その後 合同研修会を実施し、学習指導や生活指導に活かす。</li> <li>・小中教員の定期的な交流を行い、共通理解のもと学習指導や生活指導に取り組む。</li> <li>・学校園所連携として授業参観の機会を持ち、教師間の交流を図り、連携を深める。</li> </ul>			
家庭学習の充実 (d・e・f)	<p>◆成果となる目標①に関して、保護者は前年度以上となったが、2年生は前年度以下となり、目標達成には至らなかった。引き続き、家庭学習の習慣が身につくよう、取り組んでいく必要がある。</p>	B	家庭学習の充実 (d・e・f)	<p>①「学校評価アンケート」において、「家庭学習の習慣が身につけていると思う」という質問に対する肯定的回答が全学年、保護者ともに前年度以上になるようにする。</p> <p>②家庭への啓発及び連携により、家庭学習の定着をより進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣を身につけるために、単元ごとの小テストを行うなど、スモールステップで取り組む機会を増やす。</li> <li>・学習アプリの活用により一人ひとりに応じた個別最適な学習活動を提供する</li> <li>・予習・復習の習慣が身につくよう、授業内容を改善する。</li> </ul>			
読書活動の充実 (b・d)	<p>○成果となる目標①②を達成できた。図書委員会の活動や学級文庫の設置等を通して、本に親しむことができた。</p> <p>◆図書室を利用する生徒や、自主的に読書をする生徒に偏りがあるため、読書のしやすい雰囲気づくりや読書活動の推進に取り組む。</p>	B	読書活動の充実 (b・d)	<p>①全国学力学習状況調査の「読書は好きですか」の質問に対する肯定的回答の割合を前年度以上にする。</p> <p>②「学校図書アンケート」における「本が好きか」、「1か月にどのくらい本を読むか」という質問に対する肯定的回答の割合を前年度以上にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝読書の時間を設けたり、「年間での読書数」などの読書目標を掲げる。</li> <li>・図書委員会の活動を通して学級文庫の設置や図書室利用の呼びかけなどを活発に行うことにより、読書のしやすい雰囲気をつくる。</li> </ul>			
ICTを活用した授業改善や学習環境の整備 (a・b・c・d・e・f)	<p>○成果となる目標①を達成できた。生徒対象に授業アンケートを実施したり、教員間で授業参観を行ったりして、授業改善や授業力向上のために努めることができた。</p> <p>◆一人一台端末を活用することの意義を考え、有効に利用し、個別最適な学習を充実させる。</p>	A	ICTを活用した授業改善や学習環境の整備 (a・b・c・d・e・f)	<p>①「学校評価アンケート」の「先生は、授業がわかりやすいように教え方を工夫している」に対する肯定的回答を90%以上にする。</p> <p>②「個別最適な学びと協働的な学び」を研究テーマとして、一人ひとりの可能性を開花させるための学びの充実に向け、多様な生徒たちの個別最適な学習を充実させる。生徒それぞれがお互いの個性を尊重しながら交流し、高めあう協働的な学びについての研究推進を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットを用いた学習課題や、ひょうごがんばり学びタイム、テスト前や長期休業中の学習相談など、一人ひとりに応じた学習活動、学習課題を提供する。</li> <li>・授業のユニバーサルデザイン化(黒板に共通して明示するもの、プリント文字のフォントやサイズなど)を進め、学習の見通しや学習の足跡がわかる板書計画や授業の展開を図る。</li> <li>・調べ学習や意見交流、考察のまとめなどで積極的に端末を活用すると同時に、端末の使い方のルールやマナーを身に付けさせる。</li> </ul>			
地域とのかかわりとキャリア教育 (c・g)	<p>○成果となる目標①を達成できた。キャリア教育や進路学習を充実させ、将来について考える機会を大切にしていく。</p> <p>○夏祭りなど地域の行事に参加し、地域との交流をもつことができた。</p> <p>○トライやるウィークでの体験を通して、自分の将来や地域の仕事について関心をもつことができた。</p>	A	地域とのかかわりとキャリア教育 (c・g)	<p>①「全国学力学習状況調査」の質問調査における「将来の夢や目標を持っている」という質問に対して「持っている」と答える生徒の割合を80%以上にする。</p> <p>②トライやるウィークを通して、地域の仕事に関心を持ち、地域に対して興味や関心を持つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育目標にある「夢や希望を抱き、心豊かにたくましく 共に生きる」ことができるように、キャリア教育や進路学習、トライやるウィークなど、将来について考える機会を大切に、将来や未来に目を向けさせる。</li> <li>・トライやるウィークで地域の職業体験や、ボランティア活動などを通して、地域のことに関心を持ったり愛着を感じたりできるようにする。</li> <li>・トライやるウィークを通して、自分の適性などについて考え、進路選択を進める。</li> </ul>			

○「教員評価」は教員対象に実施した自己点検調査結果(0～4の5段階評価)の平均値  
○「評価」は年間の取組みについて、4段階で評価  
A・・・十分に達成 B・・・おおよそ達成  
C・・・達成が不十分 D・・・ほとんど達成できず